

学科 学年	D 4	科目 分類	ドイツ語 I B	講義	後期	学習教育 目標	担当	大久保 清美
			German I B	必修	1 単位	C		OHKUBO Kiyomi
概 要	<p>近年のヨーロッパ統合の動きに伴い、世界におけるヨーロッパの重要性はますます高まってきている。中でもドイツは、地理的のみならず、経済的・政治的にも、東へ拡大する欧州連合（EU）の中心である。従ってドイツ語は、ヨーロッパにおいてはコミュニケーション言語としての重要性も高めてきている。</p> <p>しかし、ヨーロッパから遠く離れた日本においては、ドイツ語のコミュニケーション言語としての需要は少ない。従って、日本におけるドイツ語教育はむしろ、ドイツあるいはヨーロッパの民族・文化・生活様式等に対する理解に価値を置くべきだろう。ドイツ語との出会いは異質な世界との出会いである。学生が授業で出会う異質な世界を良く理解し、異質な世界との取り組みから自分自身の世界を更に良く理解するならば、すなわち学生の経験の地平が広げられるならば、それはまた、学生の人格形成に寄与するものである。</p>							
科目目標 (到達目標)	<p>外国語としてのドイツ語（DaF）教授法分野で上記のような考えに基づいて1980年代後半から発展してきたのが「異文化間コミュニケーション・アプローチ」(Der interkulturelle Ansatz)である。本授業においても、この教授法が重視する「テーマ・内容」を授業の中心に据え、その各々についてドイツ事情と日本事情とを比較することにより、異文化理解・自文化理解を深めることを目標とする。</p>							
教科書 器材等	<ul style="list-style-type: none"> ・ハロー・ミュンヘン（関口一郎編著、白水社） ・ドイツ事情等の異文化理解のための補助手段として、各種ビデオ、テレビニュース、映画、音楽等のメディアを随時授業に投入する。 							
評価の基準と 方法	<p>定期試験の平均成績を80%、授業への積極姿勢を20%として評価する。60点以上を合格とする。</p>							
関連科目	英語							
授業計画								
第1～6回	<p>Lektion 5 : Ein Tag von Michael</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーセンテンス ・Sketch ・Übungen ・3格と4格の基本的な用法 ・冠詞の3格 ・人称代名詞の格変化 ・3格支配の前置詞 ・4格支配の前置詞 ・3・4格支配の前置詞 ・前置詞と定冠詞の融合形 *名詞と冠詞の格のまとめ／2格の用法／曜日 							
第7回	後期中間試験							
第8回	『きよしこの夜』・『喜びの歌』を歌う							
第9～14回	<p>Lektion 6 : Im Olympiapark</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーセンテンス ・Sketch ・Übungen ・müssen ・wollen ・dürfen ・können ・sollen ・möchte[n] *話法の助動詞の単独での用法／未来・推量の助動詞werden／いろいろなビールコースター 							
第15回	学年末試験							
オフィス アワー	月曜日15時～16時30分							
備 考	<p>本授業に関する質問は、次のメールアドレスでも受け付ける。 ohkubo@numazu-ct.ac.jp</p>							